

Collection Car Auction

Collection No.16



2023.1.16 (mon) - 1.22 (sun)

このオークションは、BINGOとヤフオク!が定期開催する、 『COLLECTION CAR AUCTION / NO.16』にて出品されます。 入札方法は、通常のヤフオク!と同じになりますが、入札の際 には"事前に身分証の提示が必要"となります。 審査には、2-3日必要となりますので、入札をご検討される方は お早目に登録をお済ませください。 登録方法は、下記URLページ下部に記載しています。

https://auctions.yahoo.co.jp/topic/promo/car_collection/item16/



[Interview] Vol.1 P.C		P.04 - 07
LOT.1	1977 TOYOTA Toyoace RY10-P Barracuda	P.08 - 13
LOT.2	1973 MAZDA KRAFT TRUCK DUC9-133055	P.14 - 17
LOT.3	HONDA VAMOS	P.18 - 21
LOT.4	1979 TOYOTA TOWNACE E-TR15G	P.22 - 23
LOT.5	1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47	P.24 - 27
[Interview] Vol.2		P.28 - 31
LOT.6	1958 Bedford CA Dormobile	P.32 - 35
LOT.7	1963 Chevrolet Corvair Greenbrier	P.36 - 37
LOT.8	1965 FORD ECONOLINE FALCON	P.38 - 41
LOT.9	1972 DODGE EXPLORER	P.42 - 45
LOT.10	1973 WINNEBAGO BRAVE 18	P.46 - 49
LOT.11	1973 Sportscoach	P.50 - 53
LOT.12	1979 FORD Econoline Club Wagon	P.54 - 57
LOT.13	1984 AMC Eagle Wagon	P.58 - 59
[Interview] Vol.3		P60 - 61

車両紹介や、インタビューなどは、 BINGO Media の YouTube からご確認ください。



BINGO MEDIA

「なぜ、もっと人の多いところで商売しないのか」と言われても貫き通した思いがある。今では、人口わずか1万6千人のこの町にあるアウトドアショップに全国から多くのファンが訪れている。

そこは『Orange』代表の池田氏が追求してきた"体験の提供"に溢れていた。

出身、和歌山県伊都郡かつらぎ町。



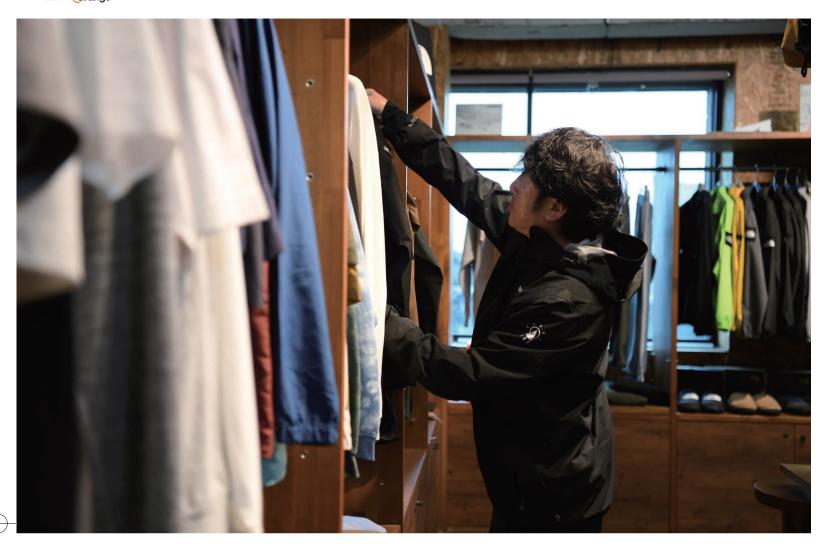
株式会社ミモナ (Mimona Co.,Ltd.) 代表取締役社長

池田 道夫



Michio Ikeda 07

06 Orande



和歌山県伊都郡かつらぎ町。この人口わずか1万6千人の小さ するようになってたんです。」

ドのロゴが並ぶこのショップには、見慣れないキャンプグッズ 史の深いものなど、毎回ギアから何か発見するのが凄く楽しか が所狭しと並び、眺めているだけでもワクワクとさせてくれる。 ったんです。それに、僕の住む地域はどこも自然豊かで、東京 そして訪れた人々はお店のスタッフたちとキャンプ話に花を咲 の人からすれば、一歩家から出るだけでアウトドアな空間が広 かせ、皆笑顔でみせを後にしていく。

この「Orange」アウトドアショップの代表を務めるのが池田 お気に入りのギアを試すことができました。」 道夫氏。お店の雰囲気と同じく、柔らかい第一印象で、常に人 キャンプを通して生まれる人との交流も、のめり込むきっか を楽しませることを考えているような人物だった。

にオープンしたんです。ショップを開いた時はとにかくいろん ーションも必要になる。こうした経験は普段の生活の中ではな なところへサーフィンに出かけてました。でも、当時はお金もかなか味わうことができない。コミュニケーションを取るコト、 なくて、遠出をしても安く済ませられるように自分たちでテン 面倒だと思うコト、不便だと感じるコトすら楽しいコトだと感 トを張ってキャンプみたいなことをしてみたり、車中泊をしてじ始めた。 みたり、かっこよく、今風に言えば"VAN LIFE"みたいなことを

な田舎町に、連日多くの人で賑わうアウトドアショップがある。 手段の一環として始めたキャンプだったが、次第にその奥深 「Orange」と書かれた看板の下に、多くのアウトドアブラン さにのめり込んでいく。「驚くような機能を持ったものや、歴 がっている。この環境にいたからこそ、自分が思うスタイルや、

けになった。テントを張る事にしても、一緒にきた仲間や、偶 「僕がお店を始めたのは23歳の時。サーフショップとして最初 然その場に居合わせた人と協力する必要があるし、コミュニケ

手段の一環としてスタートしてたはずのキャンプは、いつの





"体験"を共有することに情熱を持って



間にか目的に変わっていた。こんなにも楽しいコトをもっと多た。スタッフが"勉強している"というよりも、"楽しんでいる"と くの人に知ってもらいたいと思った時にどこでスタートするべ 感じた。取材当日もお店の外に備えられた芝生でテントを貼る きか。 それは楽しさを教えてくれた出身地、『和歌山県伊都郡 講習が行われていた。お客さんだけではなく、スタッフの方も かつらぎ町』から発信したいと考え始めていた。しかし、周り 楽しそうに講習を行っていたその様子は、『Orange』の本質的な の人間からは『もっと人が多いところ、重要のあるところで商魅力をみれたような気がした。 売した方がいい』と反対もされた。

てかけがいのないものだった。

そんな店作りを実現するため、あることを徹底しているとい 物を体験できる環境がそこには集められていた。 う。「物を売ることを目標とするのではなく、『Orange』でしか 初心者も、上級者も関係なく楽しいと思える体験が出来る。 それはお店に実際に入った瞬間に体感できる。

商品棚に並んだ一見使いこなすのが難しそうなグッズでも、 ンプサイトも運営し、より多くの体験を提供している。 スタッフの方によるわかりやすい解説のポップが添えられてい

テントを貼る講習は、都内のアウトドアショップでも体験 自分が感じた確かな"楽しいコト"をそのままお客さんと共有 可能だ。でも実際に風のある中で、土に触れながらはなかな できれば、必ず共感してくれる人がいることは確信していた。 かできることではない。それに加えて「Orange Old Coleman それほどにキャンプが持つ"楽しさ"というものは池田氏にとっ Museum Japan」に入れば、アンティークのコールマンや、ビ ンテージ ランタン、関連グッズが所狭しと並べられている。本

味わうことのできない"体験"を提供することに情熱を持つこと」 それこそが全国のアウトドアファンから愛される所以だろう。 体験といえば、Orangeから車で30分ぐらいの距離の場所でキャ



〒649-7113 和歌山県伊都郡 つらぎ町妙寺488-4

> 11:00am - 19:00pm 無休(但し年末年始はあり)

Orange (ギア館・アパレル館)

当車両は、戦後日本における代表的な商用トラックとして知られるトヨタ「トヨエース」の3代目。定員6名の「ダブルキャブ」グレードだ。見ての通り、当個体は商用車としての面影は残しておらず、軍用車を思わせる無骨なスタイリングへとカスタムされている。このスタイルは、池田氏がかねてより思い描いていた"理想のトラック"を具現化したカスタムで、コレクションの中でも特に思い入れの強い一台だそうだ。

カスタム前は白のボディカラーを纏い、ドアには〇〇工務店といったロゴが入った、いかにも商用車という佇まいの個体であった。そこに板金補修とフルオールペンを実施。ミリタリーなカーキグリーンは、ダイハツの純正色としても設定されているカラーであり、さりげなく光るメタリックが剛健さを纏いつつも、モダンで洗練された印象を与える。そしてノーマルから大幅にサイズアップされたホイールもこの車両のアイデンティティ。サイズは16インチで、この車の屈強な印象を形作っている。

















- ・メタリックグリーンにオールペン
- ・ルーフテント
- ・16 インチ社外ホイール
- ・オリジナル幌



1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier
47
Land Cruiser Troop Carrier 47
1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier
47
Land Cruiser Troop Carrier 47
1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier
47

Land Cruiser Troop Carrier 47



1977 TOYOTA TOYOACE RY10-P BARRACUDA <u>11</u>





1977 TOYOTA TOYOACE RY10-P BARRACUDA

Estimate ¥000,000,000 - ¥000,000,000

Milleage : 16,842km VIN : RY10-018232 Engine : 1.6L Straight-4 OHV

Passengers : 6 Option : Roof Tent

















1977 TOYOTA TOYOACE RY10-P BARRACUDA 13

12 Orange

















キャンプを意識した特徴としては、屋根にテン リジナル状態とのこと。このインテリアがカスタ が入っても問題ないとのことだ。

この車両であるが、実は大掛かりなカスタムは施なっている。 されていない。リフトアップはされておらず、外 装パーツもそのままであるというから驚きだ。オ ユニークなルックスも注目だが、6人乗り、テン 持つセンスが光った一台と言えるだろう。

内張りの少ない金属剥き出しの内装は、ほぼオ

トが備えられている点だ。コンパクトで簡易的なムのテーマと見事に調和しており、外装に合わせ テントに見えるが、展開してみると中は十分なス て作り替えたと思わせるほど違和感のない仕上が ペースが広がる。耐荷重にも優れており、大人3人 りとなっている。ラジオは当時のオリジナルが装 備されており、AMラジオが受信可能。荷台のスペ 純正の「トヨエース」から大きく趣を異とする 一スも十分で、大荷物も容易に積み込めるように

リジナルの良さを存分に活かしつつ、見るものに ト装備、エンジンも快調に動作する実用性を兼ね 驚きを提供してくれるこのスタイルは、池田氏の 備えたこの車は、ソロはもちろん、ファミリーキ ャンプでの使用に適している点でも魅力となって 14 Orange 1973 MAZDA KRAFT TRUCK DUC9-133055 <u>15</u>









この個体は実用本意で設計されたマツダの商用 トラック「クラフト」に、池田代表の意向による カスタムを施した車となっている。ちなみに「ク

どこまでも走っていけるタフなトラックを目指し て設計された。当個体は角目ヘッドライトを搭載

する後期型で、より精悍な顔つきとなっている。 カスタムのテーマは、ベンツの「ウニモグ」を イメージしたということで、「Kraft」のドイツ名を



1973 MAZDA KRAFT TRUCK DUC9-133055

Estimate ¥000,000,000 - ¥000,000,000

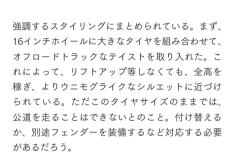
Milleage : -VIN : DUC9-133055 Engine: 1.5L Straight-4 OHV Passengers: 3 Option:-

・池田社長の一言

- ・メタリックグリーンにオールペン
- ・16 インチホイール、タイヤ
- ・角目ライトの後期型
- ・人間工学に基づいたインテリア

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47













16 Orange 1973 MAZDA KRAFT TRUCK DUC9-133055 17











クラフトトラックの純正色としてよく知られて 可能。1500cc75馬力というコンパクトなパッケー せている。

近いテーマでカスタムした「トヨエース」同様、 も存分に活かされている。

コンディションを維持。状態もフロアから荷台ま 分も広く、大量の荷物を簡単に積み込める点も実 で大きな錆等もなく良好となっている。エンジン 用本位で設計されたクラフトらしい利点である。 はベンチ型の3人乗りシートを外すことでアクセス

いるのが、明るい黄緑色の「ヘリオスグリーン」 ジとなっているため、エンジンの熱が運転席に上 であるが、この個体はダイハツの純正色であるメがってくることも少ない。ラジエーター、ブレー タリックカラーにオールペンされている。これに キオイルなどは、運転席を外さなくとも、ボンネ よって古臭さを取り除き、全体像を引き締め、カットを開ければメンテナンス可能で、整備性も考 スタムトラック然とした雰囲気をうまい具合に着 慮されているのが商用トラックらしい点と言える だろう。

またクラフトは人間工学に基づいた設計、そし こちらもその他の部分で特にカスタムされた箇所 て使い勝手に重きを置いたモデルだけあって、レ はない。オリジナルを極力維持しつつ、全く新し ジャーで使用する際も活躍してくれそうだ。運転 い車に生まれ変わらせる池田氏の発想力がここで 席の視界は広く、大きな三角窓により換気も容易 となっており、エアコンがなくともある程度は快 内装には手を加えておらず、オリジナルに近い 適に運転できるようになっている。そして荷台部







HONDA VAMOS 19







HONDA VAMOS

Estimate ¥000,000,000 - ¥000,000,000

Milleage : -VIN : TN360-1485803 Engine : 350cc Water-cooled 4-Stroke 2-Cylinder OHC

・池田社長の一言

Passengers : 2[4] Option : -

希少なフルホロモデル

・オリジナルボディカラー

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47







"現代にはない車"という言葉がこれほどまでに似合う車両はこの初代「ホンダバモス」以外ないだろう。小さなボディにはドアや屋根が備えられておらず、乗員と車外を隔てるのはドアの代わりに備えられたガードバーとフロントウィンドウだけ。運転席から少し目を落とせばもうそこは道路という、前衛的なルックスが強い存在感を放つ。

ミッションはマニュアル4速。エンジンは354cc 空冷2気筒OHCが2列目運転席の下に設置されている。所謂ミッドシップレイアウトとなっている点がユニークだ。顔つきも特徴的で、飛び出したカエルの目のようなヘッドランプの間にスペアタイアが収まったデザインは、小さなボディと相まってとても可愛らしい印象を与えてくれる。一方内装を見れば、内張りなしの金属剥き出し、簡素なメーターが並ぶダッシュパネルなど、さながら軍用車のようで、スパルタンな魅力も併せ持つ。





















当個体は今年4月に開催された自動車やバイクな できる利便性が追求されている。しかし「バモス」 その場で購入を決めたそうだ

「バモス」はそのデザインもさることながら、レ た。そのため、コンパクトなボディと荷物の積みないと言うことから、この個体の希少性は非常に 下ろしが容易なのも特徴で、どこに行っても活躍高いと言えるだろう。

ど乗り物に特化したアウトドアイベント「VEHICLE のアヴァンギャルドなデザインは当時のユーザー STYLE」で展示されていた車両となる。池田氏は にはあまり受け入れられることはなく、生産期間 かねてより「バモス」を探していたのもあって、 はわずか3年、製造台数も2530台にとどまり、現 存する個体は少ない。

また「バモス」には2人乗りモデルと4人乗りモ ジャーにはもちろん、現場作業まで、そつなくこデル、そして上部全体を覆う幌を備えたフルホロ なせる車両をめざして設計されているのが魅力の タイプの3種類があった。そのなかでもフルホロ モデルだ。キャッチコピーも「乗る人のアイデア モデルの生産台数は少なく、さらに外装のボディ によって用途が無限に広がる車」として販売され 一カラーもオリジナル、内装にも手は加わってい





1979 TOYOTA TOWNACE E-TR15G

Estimate ¥000,000,000 - ¥000,000,000

Milleage : -VIN : TR15-021915 Engine: 1.8L Straight-4 OHV

・池田社長の一言

オリジナル度の高いコンディション

- ・フルフラット化可能なシート
- 汎用性に優れたラゲッジスペース

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47

Passengers: 8 Option: -

















「ハイエース」、とそれをより小型化した「ミニ 別キャンプに特化した機能等は備えていない。し 型で、三列シートを備えた7人搭乗可能の乗用グレ で、かなりの量のキャンプギアも積み込める。 ードワゴンモデルとなる。

当個体も池田氏が購入した当時から交換したパ 外装の状態も、大きな傷や錆等もなく、比較的良 も一度も遭遇していないとのこと。 好な状態を保つ。内装はブラウンで統一されたオ リジナルインテリアとなっており、現代の車には い仕上がりとなっている。

当車両はあくまでも乗用バンということで、特

エース」の中間的立ち位置で、現行モデルもその かしシートの2列目と3列目はフルフラット化す 利便性から高い人気を誇る「タウンエース」。当個 るため、2名が寝られるくらいのベッドとして使用 体は1976年に登場した「タウンエース」の最初期 できるだろう。また3列目は折り畳むことも可能

エンジンに関してはバッテリーを交換する必要 ーツ等はなく、高いオリジナル度を維持している。があるが、基本的には快調に動作し、トラブルに

この車は汎用性に優れたラゲッジスペースや、 ない当時のモデルならではの趣を感じさせてくれ 快適な室内、そしてメカニカル部の状態の良さか る。フロントの内張りのみは、前オーナーによっ
ら、このままでももちろん十分レジャーで使用で て臙脂色のシートに交換されているが、ブラウン きる。しかし、その素性の良さから、自分好みの のボディカラーとマッチし、違和感を感じさせな クラシックキャンパーを作り上げるベース車両と してもいいかもしれない。

1987 TOYOTA LAND CRUISER TROOP CARRIER 47 25





1987 TOYOTA LAND CRUISER TROOP CARRIER 47

Estimate ¥000,000,000 - ¥000,000,000

Milleage : 20,295km VIN : HJ47034530 Engine : 4.0L Straight-4 OHV Diesel Passengers : 2[5] Option : -

・池田社長の一言

- オーストラリア専売のトループキャリア
- ・ポップアップルーフ
- ・大型シュノーケル
- ・ディーゼルエンジン

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47















当個体はオーストラリアでのみ販売されていたロングボディタイプ「トループキャリア」モデルだ。国産クロスカントリーを代表する人気モデルとして、多くのファンを持つ「ランドクルーザー」であるが、現行車でもこのトループキャリアはオーストラリア専売モデルとして知られている。そのため日本国内の個体数は非常に少なく、ランクル乗りにとって一つの憧れの対象となっているのがこのモデルなのだ。

当個体は歴代のランクルの中でもアメリカを中心 に大ヒットを記録し、24年間製造され続けたベスト セラーモデルの40系という点にも注目したい。こ の代で初のディーゼルエンジンを搭載し、より品質 を重視して設計されたため、信頼性が高く悪路走破 性もより一層強化された。そして初代から受け継い だミリタリーなテイストを色濃く残すスタイリング も、今なお高い人気を誇る所以と言えるだろう。

この車両はオーストラリアから直輸入したもので はなく、池田氏が北海道で売られていたのを偶然見 つけて購入したそうだ。購入時点で、前オーナーの ランクル愛あふれるカスタムが随所に施されてお り、それも購入の決め手となったという。特に注目 したいのが、キャンピングカーに搭載されるような ポップアップルーフを装備している点。これによっ て、"トルーピー"の広々とした室内がさらに拡張さ れ、車内で立って作業できる快適装備となっている。 また左フロントには大型のシュノーケルも装備され ており、ロングボディに更なる迫力をプラスする。





















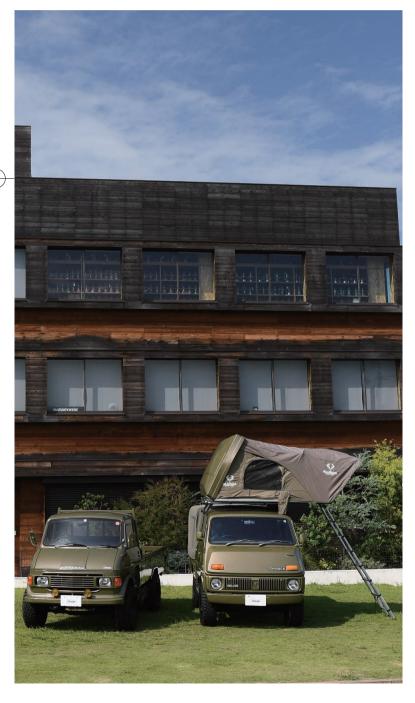


内装は"トルーピー"の名が意味する「兵士を運 ぶ車両」という通り、金属剥き出し状態で、軍用 車を思わせる精悍なインテリアもまた魅力の一つ と言えるだろう。状態に関しては内外装ともに錆 やヤレが見受けられるが、搭載するディーゼルエ ンジンは快調に動作し、名古屋で開催されたイベ ントにも何ら問題なく自走で参加できたとのこと。 クラシックランクルでありながら、非常に希少 価値の高いトルーピーボディを備えたこの個体。 ランクルマニアであれば是非とも手に入れておき たい一台だ。

28 Orange Michio Ikeda 29



共感する価値観を共有すること



30 Orande

コレクションの中でも一際強い存在感を放つ車があった。『ベ ッドフォード CA ドーモービル』。この車が映る一本の動画をき っかけに、池田氏のキャンピングカー収集が始まる。

当時ファッションブランド『Diesel』がこの車を使った短いP Vを公開していた。その映像には、陽光眩しいロンドンの街を気 持ちよさそうに走るベットフォードの姿が収められていた。偶 然映像を見た池田氏は、一瞬にして車の魅力に心奪われた。

「いてもたってもいられず、当時のオーナーさんに"良い車で すね"とダイレクトメッセージしてみたんです」

オーナーはドイツで車を保管していることを教えてくれた。 高揚する気持ちを抑えつつ"譲ってほしい"と返信してみた。で も、帰ってきたのは"誰にも譲る気はない"という文面だった。 落胆したものの、メールには続きがあった。"日本にも、この車 の魅力をわかってくれる人がいるなんて大変嬉しい"。と。

それを機に、日本とドイツという9,000kmの距離を隔てた交 流が始まる。ベッドフォードのオーナーが長年かけて蓄えてき た深い造形はもちろん、強い情熱、魅力を池田氏に教えてくれた。 そして長い期間コミュニケーションを重ねていくうち、池田氏 はある相談を持ちかけられる。それはベッドフォードを譲りた いという願ってもない申し出だった。

かなりの高齢だったオーナーは、車の価値を理解する人物に 譲り、歴史を受け継いでもらいたいということだった。

「共感する価値観とそれを教えてくれた方に信頼してもらえた。 それがとっても嬉しかったんです」



当時を振りかえって語る池田氏の眼差しには、この車への深 モノを通しても人との交流がもたらしてくれる『楽しさ』を知 い愛情と、それに至った友情の温かさを感じた。

自分が感じてきた『楽しさ』を一つの形にできないか?という 思いが次第に強くなっていった。そんなことを考えながらオー クションサイトを眺めていると一台のトラックが目に留まる。 ー トヨエースダブルキャブ

『ベッドフォード』に魅せられた時の気持ちを思い出させる する様を彼に鮮明に想像させた。

線で繋がり、イメージが彼の中で一気に湧きあがっていった。 を共有するという目標を実現させてくれた1台だったのである。 人との交流がもたらしてくれる『楽しさ』を知ったアウトドア。

った自動車。その『楽しさ』を詰め込んで作り上げたこの車は、 まさに池田氏が信じる『楽しさ』の結晶だった。その結晶は、 自動車の魅力に目覚めた池田氏は、若い時から憧れていた車、「Orange」の看板車両としてさまざまなメディアで取り上げら 楽しい車を少しずつ集めていく。そして次第に自動車を通して、れ、多くのアウトドアファンの心に刺さり、大きな反響を得た。

> 「この車は僕の『楽しい』と思う気持ちがお客さんの心にもし っかり届いてくれたこと、そしてそれを共有する喜びを改めて 教えてくれた車なんです。」

ベッドフォードのオーナーに認められた瞬間は、ある意味で かっこよさとレトロな可愛らしさ。そして6人乗りのダブルキャ 二人だけの秘められたこだわりの『楽しい』世界だった。しかし、 ブボディは、家族や仲間たちと楽しく、かっこよくキャンプを 池田氏が考える人との繋がり。楽しさを共有する。という価値 観を詰め込んで、開かれたこだわりの世界へと昇華させてみせ 池田氏が、車とアウトドア。それぞれに持っていた価値観が た $\lceil F
vert$ た vert はそんな池田氏が自然と追求してきた vert vert と vert に vert に vert と vert に vert と vert に vert と vert

1958 BEDFORD CA DORMOBILE 33

32 Orange















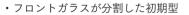


1958 BEDFORD CA DORMOBILE

Estimate **¥000,000,000 - ¥000,000,000**

Milleage: VIN:国[01]120223 Engine:1.5L Straight-4 OHV Passengers : 4 Option : Pop-up Roof / Kitchen Sink / Gas Stove

・池田社長の一言



- ・ポップアップルーフ
- ・由緒正しきヒストリー(各種資料あり)
- ・オリジナル度の高いコンディション

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47





「ベッドフォード CA ドーモービル」は1952年から1969年にかけて製造された、当時のイギリスを代表する商用車「ベッドフォード CA」をベースにキャンピング仕様に仕立てられたモデルだ。仕様変更は、馬具製造業にルーツを持つコーチビルダー「ドーモービル」が手掛け、美しさとレトロなかわいらしさを併せ持った唯一無二の魅力を持つ車両となっている。等個体の大きな特徴となるのが、フロントガラスが2枚に分割している初期型ということ。「ベッドフォードCA」はロングセラーモデルではあるが、このフロントガラスは初期型にのみ採用され、世界的に非常に希少価値が高いことで知られている。無論それは日本においても同様で、国内で確認できる個体はこれ以外に見つからない。

















しかしその希少性もさることながら、この車が持つ最大の魅力は、辿ってきた由緒正しき歴史であるかもしれない。この個体は、2001年に大幅なレストアが実施され、当時においても現存する「ドーモービル」の中で、屈指の美しさを放って注目を集めた。その知名度は次第に大きくなり、さまざまな雑誌でこの車の特集が組まれ、紙面を彩った。カーショーでもその圧倒的な存在感で多くの人々を魅了する。希少なクラシックキャンピングカーが多数参加する「Classic Camper Club」に参加した際には、2008年度「ベストパネルバン」、そして「最優秀賞」の二冠を獲得した。2009年から1年間は、大手ファッションブランドである『Diesel』によって所有された後、ドイツ在住の前オーナーの元に渡ったと思われる。

状態に関しては、池田氏が特に思い入れが強い車というだけあって、購入時からほとんど手を加えずに大切に保管してきたという。最大の特徴とも言えるアコーディオンのように展開するポップアップルーフも問題なく可動し、側面にあしらわれたキャンディストライプの柄がブルーのボディカラーとマッチして爽やかな印象を与えてくれる。ただ、天窓に関しては輸入時に痛みが進んでいたらしく、ワンオフで新たに制作したガラスへと変更されている。



内装にはコンロ、シンク、木製のテーブル、4座の独立した通称" Dormaticシート"を装備している。 しかし、コンロは当時の規格のままとなっている ため、このままで実際に使用するのは難しい。

エンジンは1507cc、ミッションは3速コラム式が採用されている。実際に走行するにはプレーキの修理、バッテリー交換が必要となるが、それを除けば全体的な状態の良さもあり、少し手を加えれば元気に走ってくれるだろう。

さまざまなオーナーを渡り歩き、それぞれの時代と人生を乗せて走ってきた、由緒正しき車。また新たなオーナーのもとで、歴史の続きを刻んでほしい。

1963 CHEVROLET CORVAIR GREENBRIER ___**37**

36 Orange









1963 CHEVROLET CORVAIR GREENBRIER

Estimate ¥000,000,000 - ¥000,000,000

Milleage: 99,464mile VIN:国[01]136859 Engine: 2.4L Air-cooled Flat-6 Passengers : 8 Option :

・池田社長の一言









「フォードエコノライン」、「ワーゲンバス」と並び、60年代のバンライフを象徴する車が、この「シボレーコルヴェア グリーンブライアー」。ホイールベースが95インチだったことから、一般的には「コルヴェア95」と呼ばれることも多いモデルだ。「コルヴェア」の最大の特徴として知られているのが、水平対向6気筒空冷エンジンをリアに搭載している点である。これは当時のアメリカ車としては異例のレイアウトで、同じくリアに空冷エンジンを搭載していた「ワーゲン」を強く意識していたことが窺える。エンジンはリアのラゲッジスペースにフードがボルト留めされており、これを開けることでアクセスできる。

池田氏によれば当個体購入時は外装のヤレがやや目立つ状態だったそうだ。そこにオールペンと板金補修を実施し、現在まで良好な状態が維持されている。ボディカラーにはミリタリーテイストを感じさせるベージュカラーをチョイス。ホイールには、アメリカンレーシング製14インチ、マフラーも社外製を備え、骨太でスタイリッシュなデザインにまとめられている。

インテリアは内張りがなく金属剥き出しで、外装のデザインに合わせて雄々しいスタイルを貫く。特別キャンプ仕様となっているわけではないが、両開きになるサイドドア、リアハッチが備えられ、荷物の積み込みも容易となっている。

トランスミッションはマニュアルフロア式4速。 エンジンもシボレー製が搭載されており、パーツ 入手も容易だ。しっかりと手をかけてやれば長く 乗ることのできるクラシックバンと言えるだろう。

- ・オールペン
- ・アメリカンレーシング 14 インチホイール
- ・社外製マフラー
- ・両開きサイドドア、リアハッチ

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier

Land Cruiser Troop Carrier 47
1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier
47

Land Cruiser Troop Carrier 47
1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier
47

Land Cruiser Troop Carrier 47













1965 FORD ECONOLINE FALCON

Estimate **¥000,000,000 - ¥000,000,000**

Milleage: VIN:国[01]141365 Engine :2.8L Straight-6 COE

・池田社長の一言

Passengers : 6

Option: Travel Top / Bed ×1 / Kitchen Sink/ Gas Stove / Refrigerator / heater

アルミ製トラベルトップ

・アメリカンレーシング 15 インチホイール

ドア連動式ステップ

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47









60年代バンの歴史を語るうえで外せない名車が この「フォードエコノライン」だ。コンパクトカ - の分野においても「ワーゲンビートル」の大流 行に対抗するべく、米国の自動車メーカーはこぞ ってコンパクトカーの製造に着手していた。その 中で誕生した「フォードファルコン」のフレーム をベースに、フルサイズバンへと作り替えたのが この「エコノライン」だった。

その名の通り安価で気軽に乗れることをコンセ プトに販売された「エコノライン」は、当時の若

者たちから絶大な支持を受けた。その人気は現在 でも衰えることなく、60年代のバンライフを象徴 する1台として多くのファンを持つ。

フルサイズバンとなるが、「ファルコン」がベー スのためサイズ感は意外にコンパクト。ホイール ベースも90インチとなっている。このボディサイ ズを実現するため、当時としては異例の運転席下 部にエンジンを搭載するフロントミッドシップが 採用された点も特徴だ。

当個体はキャンピング仕様として製造されたモ

デルとなり、外装内装共にその特徴を見ることが できる。まず目を引くのがルーフに備えられたア ルミのトラベルトップ。アーチ状に展開する構造 で、その独特なシルエットは、レトロで可愛らし い雰囲気を醸し出してくれる。機能面でも優れて おり、車内のスペースを大幅に拡張してくれるの はもちろん、側面には小窓も備え、車内の明るさ も確保する。







40 Orange 1965 FORD ECONOLINE FALCON 41









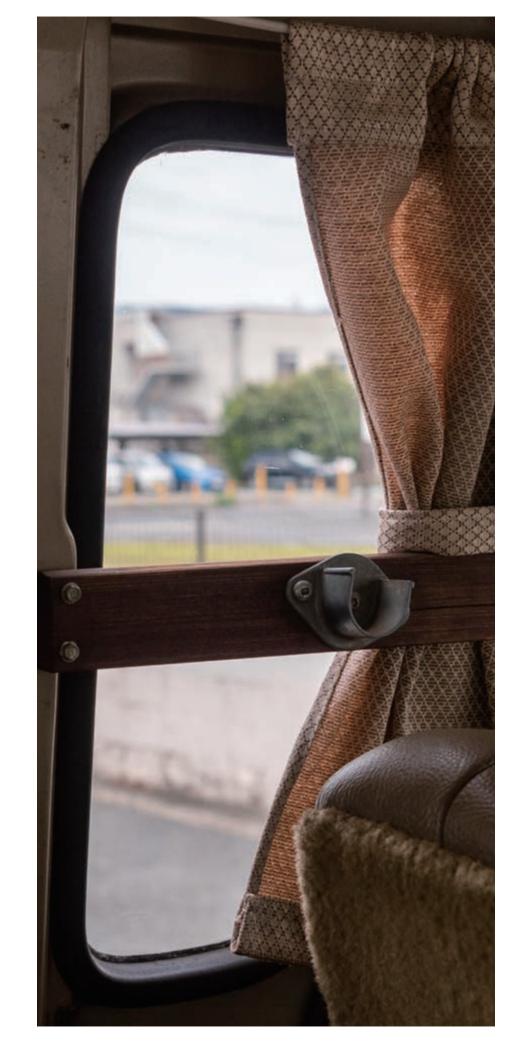




外装にはオリジナルと思われるゴールドカラーを纏い、乗用モデルのクラブワゴンにのみ備えられたスタイリッシュなモールも綺麗な状態でそのまま残されている。足元にはアメリカンレーシング製15インチホイールを装備。これは前オーナーによって装着されたもので、ゴールドのボディカラーと相まって、ボディデザインを引き締めるアクセントとなっている。

内装はキャンプに特化した装備が満載で、コンロ、シンク、冷蔵庫を備えている。しかしコンロや冷蔵庫は当時モノとなるため、実際に使用するのは難しそうだ。ソファはもちろんベッドに変形可能で、フルフラットにすれば2人が寝るのには十分なスペースが確保されている。またサイドドアは連動してステップが展開する両開きとなっており、荷物の積み下ろしや、大人数の乗り降りを考慮して設計されている。ただクーラー等が装備されていない点や、以降のモデルと比べて室内が狭いという点で、利便性には少々難があるかもしれない。

しかし、そのコンパクトで洗練されたデザインとキュートなフロントマスクは、間違いなく60年代バンのアイコンであり、現代車にはない唯一無二の魅力を放っている。ヴィンテージバンライフを夢見るなら、これほどまで絵になる車は他にないだろう。



1972 DODGE EXPLORER 43





1972 DODGE EXPLORER

Estimate ¥000,000,000 - ¥000,000,000

Milleage:3,105mile VIN:国[01]133172 Engine:Dodge 5.2L V8

Passengers : 6 Option : Bed ×3 / Toilet / oven stove

・池田社長の一言



















「ダッジエクスプローラー」は、ダッジのMシリーズシャーシにオーストラリアの架装メーカー「Explorer Motor Homes Corp」が制作したボディを組み合わせた本格的なキャンピングカー。池田氏いわくこの車両も購入時からほとんど手を加えておらず、キャブレーターのリビルドを行なった以外は、輸入された当時からそのまま手付かずの状態となっている。

1972 DODGE EXPLORER 45

44 Orange











内装も至ってシンプル。星条旗(ベッツィー・ ロス・フラッグ)が飾られている以外は、装飾品 もなく、ミニマルにまとめられている。発電機も 備えられておらず、内部に電子機器も装備してい ない。コールマン製のコンログリルと、トイレも 備わっているが、こちらも当時モノとなっている ため、使用するには何かしら手を加える必要があ るだろう。ベッドは運転席上部に展開式、テーブ ルを格納すればベッドになるソファ、そして室内 奥に大型ベッドを装備。居住スペースも広く4、5 人が寝泊まりできるスペースがあることから、あ らゆるリノベーションの可能性が秘められている。

さらにエンジンはパーツ入手性の高いダッジ製 であることからも、レストアベースの車両として もピッタリだ。ヴィンテージキャンピングカーで 自分らしさを表現したいユーザーにこそ所有して ほしい車両である。



いる。

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47



















1973 WINNEBAGO BRAVE 18 **47**







1973 WINNEBAGO BRAVE 18

Estimate ¥000,000,000 - ¥000,000,000

Milleage: 91,952mile VIN:国[01]129937 Engine : Dodge 5.2L V8

・池田社長の一言

Option: Bed ×3 / heater and Cooler / shower / Toilet / Generator / Gas Stove

- ・米国で使用されていた内装をそのまま保存

・比較的コンパクトなクラシック RV

- ・電子レンジ
- 発電機装備
- ダッジ製エンジン

※準中型免許が必要

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47









本場アメリカでモーターハウスを製造し続ける ている。また、本国アメリカでもこの種のオール ードは当時の本格派キャンパーの中でも比較的コ あるのは言うまでもないだろう。 ンパクトだった「ブレーブ18」。運転が難しいと言 われる大型のキャンピングカーの中では扱いやす あると言えるだろう。

おらず、そのままの状態で輸入された個体となっ そこには70年代アメリカの世界が広がっている。

老舗メーカー『ウィネベーゴ』。当個体は同社がドキャンパーの個体数はかなり減少していること 1973年に製造したクラシックキャンパーだ。グレ から、国内で手に入れるのが非常に難しい車両で

そして当個体で特筆すべきは内装だ。こちらも く、日本国内での使用も現実的なクラシックRVで 購入時からシートやカーペット、時計など小物類 に至るまで、当時アメリカで使用されていた内装 がそのままの状態で保存されている。深みのある 外装はかなり年季が入っており、この車が辿っ カラーリングと、角張ったボディからも時代を感 てきた歴史を感じさせるが、手は一切加えられて じさせる当車両であるが、一度中に乗り込めば、





インテリアはブラウンを貴重に統一されており、で、コンロシンクはもちろん、電子レンジやオー 木製の収納棚、カウチが備えられている。またコ ブンに冷蔵庫、シャワートイレまで備えており、 ップや食器類、バドミントンラケットなど生活感 まさにモーターホームといったところ。また発電 あふれる雑貨類も見つけることができた。こうい 機も備えているため、電子機器やヒーター等もエ った点は、これまでこの車を乗り継いできた人々 ンジンを切ったまま使用できる。ただ排水は汲み の旅の思い出を連想させ、その時代を追体験させ 出し式を採用しており、トイレなどを日本国内で てくれる楽しさがある。 使用するにはタンク式へとリノベーションする必 設備に関しては、本格派キャンパーということ 要がある。



















エンジンも問題なく動作することを確認してい も比較的容易に修理できるから安心だ。 なダッジ製を搭載しており、万一のトラブルの際的キャンプを楽しんでみてはいかがだろうか。

る。名古屋のイベントに出展した際は、そのまま 実際に使用するとなるとハードルの高いクラシッ 自走で参加したそうだ。購入してからはセルモー クキャンパー。しかし、当車両は自分好みに手を ターを交換するくらいで、大きなトラブルも起き 加えていけば、十分実用に足る車両と言えるだろ ていないとのこと。またエンジンもパーツが豊富 う。70年代カルチャーを全身に感じながら、本格





1973 SPORTSCOACH <u>51</u>





1973 SPORTSCOACH

Estimate ¥000,000,000 - ¥000,000,000

Milleage:6,511mile VIN:国[01]136730 Engine:Chevrolet7.5LV8

・池田社長の一言

・フルサイズキャンピングカー

・航空機技術を用いた設計

・現代的な快適装備

シボレー製エンジン

※準中型免許が必要

Passengers : 6 Option : Bed ×3 / Generator / Air Conditoner / Toilet / Kitchen Sink / Sokets / Refrigerator / Microwave

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47 Land Cruiser Troop Carrier 47











52 Orande





















そのボディサイズから圧倒的な存在感を放つの が、この「シボレースポーツコーチ」だ。それも 造された「スポーツコーチ」は個体数が著しく減 そのはず当個体はキャンピングカーの中でも最大 少している。 級の大きさとなる所謂フルサイズキャンパー。全 長は8メートルとなっており、迫力満点なルックス はもちろん、あらゆる快適装備が備えられた、ま さに走る家と呼ぶにふさわしい車となっている。

この車を手がけた「スポーツコーチ」は1968年 に起源を持つ、キャンピングカーに特化したコー チビルダーだった。1978年には「コーチマン」に よって買収されるが、現在でも「スポーツコーチ」 ブランドとして、フラッグシップモデルが製造さ れている。現在でもその名を残す「スポーツコーチ」 であるが、当個体は同メーカーが買収前に製造し たオリジナルモデルということで非常に高い希少

性を誇る。実際にアメリカ本国でもこの年代に製

そしてこの「スポーツコーチ」には、当時の一 般的なモーターホームと一線を画す革新的な設計 が採用されていた点にも注目したい。当時、他メ ーカーのモーターホームのボディ設計は、基本的 に木造の建築技術が用いられ、木製のフレーム等 が使用されることも珍しくなかった。それに比べ 「スポーツコーチ」は、航空機に使用されていた製 造技術を取り入れることで、軽量かつ丈夫なボデ ィを作り上げたのである。フレームにはアルミな ど金属製が多く使用され、当時のカタログを見て もその耐久性の強さが強調されている。そして特 徴的な突き出たノーズも、空気抵抗を減らす目的 でデザインされており、航空機らしいエアロダイ までなら快適に過ごせるだろう。しかし、最後尾 も測られている点も当時としては先進的だった。

当個体は内装が前のオーナーによって大幅に作 り替えられており、外装とは裏腹に現代的な快適 装備を備えている点もポイントだ。外付けの発電 機に加え、冷蔵庫、電子レンジを装備し、日本規 格のコンセントまで備えている。もちろんエアコ ン類も完備。シンクキッチンも広々としてキャン プ先でも本格的な料理が楽しめる。

ァを二つ備え、居住スペースの上部の棚を展開す れば、もう一つベッドが出現するようになってい る。十分なスペースが確保されており、6人くらい

ナミクスの技術が応用されている。また壁の中にのトイレに至ってはまだレストア前となっており、 ポリウレタン素材を用いることで、断熱効果向上 排水用のパイプも外されている。国内で使用する ためには、タンクを備えたトイレに作り替える必 要がある。

エンジンにはシボレー製が使用されており、パ ーツ類の入手難度は低い。しかし、そのボディサ イズの大きさから、運転は難しく、実用性に関し ては、お世辞にも良いとは言えないだろう。とは いっても、その充実した装備と広々としたスペー スによる快適性、そして「スポーツコーチ」が製 造した希少な個体であるということを考えれば、 ベッド類はフルフラットへ変形する大きなソフ 一つ頭の抜きん出た魅力を放つ車両であるという ことは間違いない。

1979 FORD ECONOLINE CLUB WAGON <u>55</u>











1979 FORD ECONOLINE CLUB WAGON

Estimate

¥000,000,000 - ¥000,000,000

Milleage:-VIN:国[01]150432 Engine:Ford5LStraight-6 Passengers : 6 Option : Pop-up Roof / Kitchen Sink

・池田社長の一言



ホイールベース 123 インチのロングモデル / キャンピング仕様車 / ポップアップルーフ / 3 速 A T

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47Land Cruiser Troop Carrier 47 1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47Land Cruiser Troop Carrier 47

当個体は「フォードエコノライン」の2世代目で、本格的なキャンプ仕様モデルとなっている。またホイールベースは123インチと、最も長いグレードとなる。2世代目「エコノライン」は、「フォードファルコン」をベースとしていた先代から大きく設計を変更し、現在に続く高性能バンの基礎を作り上げた画期的なモデルであった。この世代の最大の特徴は、それまで運転席下部に搭載していたエンジンを、前方向に移動させ、短いボンネットを備えた点である。これにより当時の需要を満たす大型V8エンジンの搭載が可能となり、室内のスペースもより広く確保できるようになった。また、ボンネットを備えたことでエンジンへのアクセスが容易になり、整備性が向上したのも利点だった。

キャンプに特化した当モデルの特徴として、まず目を引くのが外装に備えられたポップアップルーフだ。水平方向へと展開するタイプとなっており、車内のスペースを均等に拡張して、「エコノライン」が持つ広々とした居住スペースをより強調してくれる。また展開するとルーフ側面にはボディカラーと合わせたグリーンのストライプがあしらわれており、爽やかなアクセントとなっている。サイドのドアは使い勝手の良い両開きドアを採用し、ドアを開ければ連動してステップが展開する。























室内に関してもキャンピング装備が充実しており、シンク、広々としたキッチンスペース、クローゼットなど複数の収納も備えられている。ソファはベッドに変形するタイプとなっており、2名が寝られるくらいのスペースが広がる。

当個体は購入時から特に不具合はなく、修理したこともないとのこと。エンジンも快調に動作し、名古屋で開催されたイベント「フィールドスタイル」に展示した際は会場まで自走で参加した。

このままでキャンプ等のレジャーに使用するのもいいが、比較的状態もよく、シンプルにまとまっているキャンパーであるからこそ、より自分色にカスタマイズしやすい車両となっている。ミッションも3速ATとなっているため、実用性とスタイル両方を追求したいというユーザーに適した車両であると言える。

1984 AMC EAGLE WAGON <u>59</u>

58 Orange





1984 AMC EAGLE WAGON

¥000,000,000 - ¥000,000,000

Milleage:12,119mile VIN:神[42]838神 Engine:4.3L Straight-6 OHV

Passengers : 5 Option : -

・池田社長の一言

Estimate



- ・マルチスパーク点火方式に換装
- ・ラジエーター交換済み
- ・パートタイム4WD

1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47
Land Cruiser Troop Carrier 47
1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47
Land Cruiser Troop Carrier 47
1987 TOYOTA Land Cruiser Troop Carrier 47
Land Cruiser Troop Carrier 47



















「イーグル」は、革新的なメカニズムと優れたデザインを併せ持った「AMC」代表作の一つ。当個体はその「イーグル」の最上位グレード、1984年式の「リミテッド」モデルとなる。

この個体も購入時から一切手を加えておらず、パーツの交換等はされていない。ただ状態に関しては、四半世紀前の車両ということで、ボディ全体に多少のヤレが確認できる。しかし高いオリジナル度を保っている点に鑑みれば、多分に希少性を秘めた車両であると言えるだろう。

外装はウッドパネルをモールで囲ったカントリーライクなデザインとなっており、現代にはない当時の流行を感じさせる出立ちとなっている。内装は外装に合わせてブラウンで統一。ダッシュボードとドアトリムにもウッドパネルがあしらわれ、ハンドルを握っていても「イーグル」が持つ密度の高い雰囲気を味わうことができるだろう。もちろんこれらのインテリアも高いオリジナル度が維持されている。

そして、クロスオーバー SUVの先駆けとして知られる『イーグル』はその実用性の高さも魅力だ。その所以は「AMC」が当時保有していた「ジープ」ブランドの4WDシステムを採用した点にある。そのため悪路走破性は高く、積雪の多い地域はもちろん、ハンティングからキャンプ、軽いレジャーにも気軽に使用できたため、当時から幅広い層に支持された。さらに当個体にはオプションのパートタイム式4WDを搭載しており、この利点がより強調されている。

搭載するミッションは3速AT。エンジンは115ps を発生する直6OHV4.2リッターを搭載する。この 個体は、マルチスパーク型点火システムを備え、 ラジエーターも新しいものに交換されている。

注意したいのは、「AMC」という今はなきブランドの車両であるため、パーツの入手難度が高いと言う点だ。しかしこの車が持つ希少性とデザイン、そして優れた機能性はそれを凌駕するに十分な魅力となっている。

60 Orande



歴史をアーカイブする楽しさ

ヴィンテージカー、コールマン製のビンテージランタンなそして自動車は、これまで乗り継いできた人々の思い出や人 奥へと進めば世界で2台のみが現存するスノーモービルが誇らし 対する向き合い方からきた答えだったのである。 げに鎮座していた。このミュージアムを一周すれば、一世紀以 上続く『コールマン』の歴史をあらゆる角度から垣間見ること ができるのだ。

これだけレアなグッズをどうして網羅的に集められたのか? それは池田氏がヴィンテージグッズに掛ける飽くなき情熱と、で見つけた面白いキャンプギアから、アパレルグッズ、ミュー 一貫した強い思いによるものだった。

池田氏が初めに語ってくれたのが、ヴィンテージの魅力だ。 池田氏がまだ若かった90年代。当時の車は、まるで未来からや 行き先について池田氏はこう語った。 ってきたような輝きを放っていた。しかし20年以上が経過した 現在、また違った魅力が彼の目に映る。当時は先進的で少し冷 たい印象があった車たちが、時間と共に角は取れ、昔の感覚か ら一変してどこか可愛らしく見えた。思い出と結びついた懐か しさが蘇り、違う時代にタイムスリップしてかのような異物感 もその魅力を際立たせた。物自体の姿形は変わっていないに、 時間を飛び越え、今まで気づかなかった驚きと面白さを浮かび

際に触れ合うことで物の歴史を体験できる点にあるという。

古いモノを手に取って、新しいモノと見比べてみる。すると、 モノが辿ってきた進化と変遷を垣間見ることができる。当時の ユーザーが必要としていた機能、それを実現しようとした技術 者たちのこだわりが見ることも、感じることもできる。それは 同時に今現在身近に存在しているモノのルーツに迫ることを意 味する。つまりヴィンテージはモノだけでなく、周辺にある歴 史や文化をより深く理解する機会をも与えてくれるのだ。

「僕はモノを買うというより、歴史を買っていると思っている んです。」池田氏の言葉に、その考え方が集約されていた。

この体験は、自動車であればより強く意識できる。古くなった 車は現代の車と比べ、乗っていれば様々なトラブルに出くわす いう"体験"を経て、現代の車とは違う当時のメカニズムを発見 史に触れる"体験"を探求し、提供し続ける池田氏の周りにはモ できる。手がかかるからこそ、"体験"の機会に恵まれるのだ。

ど、様々な"古いモノ"をコレクションする池田氏。「Orange Old 生をも乗せて走りつづけてきた。製品の歴史は、書物や映像な Coleman Museum Japan」には所狭しとランタンが並べられる。 どさまざまな形で残されている。しかし、その車と過ごしてき 年代別にレイアウトされたランタンを見て回るだけで時代の移 た人々の思い出は、その車自体でしか感じることができない。 り変わりを体験できた。アウトドアブランドとしてのイメージ だからこそ、池田氏のコレクションの多くは購入時から一切手 が強いコールマンであるが、豪華なランプシェードや、箱に入 を加えず、そのままの状態で残されているのだ。それは個々の ったおもちゃなど、意外なグッズもあって驚かされる。そして 車が持つ思い出すらも体験したいという、彼のヴィンテージに

> その愛はお客さんに体験を提供することを目標に掲げる、店 舗の在り方にも落とし込まれていた。新たな感覚を呼び覚ませ てくれる驚き、触れることで初めて気づく歴史的な体験。自分 が感じたこの感動をお客さんにも共有したい。お店に並ぶ海外 ジアム、そしてヴィンテージカーまで、全ての根底には一貫し た思いが流れていた。

それはオークション出品においても変わらない。車の今後の

「車の価値を理解してくれる方の元へ届けたい、という気持ち はもちろんあります。でも、そこから一歩踏み込んで"モノ自体" が持つ価値以上に、その背景や、今まで触れることのなかった 新たな価値を発見する。そんなことを楽しんでくれる方が引き 継いでくれれば、車たちも幸せなんじゃないかと思っています。」

最後に、池田氏がずっとイメージしていたビジョンも話して

「見ての通りどれも古い車で、なかなか遠出する勇気がでず、 そして池田氏が古いモノに魅せられた最大の理由。それは実実際にキャンプをするのはできなかったんです。でもやっぱり 自分が一生懸命集めた車で、キャンプをするイメージをずっと 持ち続けてきた。だからより車に精通した方が、実際にキャン プで僕のコレクションを使用してもらえたらとても嬉しいです。 そうすれば、キャンプシーンももっと盛り上がるだろうし、車 たちにまた新たな歴史の1ページを与えることができる。それを 考えると思わずワクワクしてきますね。」

> ヴィンテージの魅力は、飾られているだけでなく、実際に触 れることで新たな価値を生み出すことができる。人気のヴィン テージアイテムは値段も高騰し、おいそれと手を出せる世界で はないのかもしれない。

でも、自分で手にしている全てのモノには歴史があって、そ の歴史を知ることで、手にしている全てのモノにも自分なりの 価値を見出せるのかもしれない。それは個人の想い出なのか、 のは避けられない。しかし、トラブルに直面し、修理をすると 歴史的価値なのか、今すぐには答えが出ない。だからこそ、歴 ノも人も集まってくるのだろう。